

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00091

研究課題名（和文）アルゼンチンにおけるLGBT権利要求をめぐる宗教言説の変容

研究課題名（英文）A Study on the Religious Statements regarding LGBT Rights in Argentina

研究代表者

渡部 奈々（WATABE, Nana）

早稲田大学・地域・地域間研究機構・その他（招聘研究員）

研究者番号：00731449

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で明らかになったのは次の点である。カトリック教会では教皇フランシスコが性的マイノリティを容認する発言をしているが、教会は同性婚を認めない姿勢を崩していない。しかしアルゼンチンのカトリック信徒の半数以上が同性婚に賛成している。ペンテコステ派教会では同性愛者やトランスジェンダーを聖書の教えに反するものとして認めておらず、信徒教育も徹底されている。LGBTが集まるメトロポリタン・コミュニティ教会では、クィア神学にもとづいて礼拝が捧げられており、同性カップルの結婚式も執り行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アルゼンチンはLGBT権利保障における先進国であるにも関わらず、日本ではその実態がほとんど知られていない。本研究はその点を明らかにするとともに、LGBT権利運動における宗教的側面に注目して、法的権利とは異なる宗教的権利（同性婚の宗教的認知等）がどのような言説で語られているのかを示した。アルゼンチンの事例は差別の撤廃というグローバルな課題がそれぞれの地域において文化的・宗教的なローカルな文脈の影響を受けることを実証するとともに、欧米中心のLGBTに関する議論や研究をさらに豊かにし、LGBTの権利保障に取り組み日本にとっても示唆に富むものとなろう。

研究成果の概要（英文）：This study illustrates the religious statements of regarding LGBT rights in Argentina. The findings reveal that Pope Francis expresses his willingness to include LGBT while the Catholic Church doesn't approve the same-sex marriage. However more than the half of the Argentine catholic population support the same-sex marriage. Pentecostal congregations condemn homosexuality and sexual diversity as the Bible disapproves them and the believers are taught those teachings repeatedly. The Metropolitan Community Church where LGBT people gather holds the Sunday service based on the queer theology and hosts a same-sex wedding ceremony.

研究分野：ラテンアメリカ研究、宗教社会学、ジェンダー研究

キーワード：LGBT 同性婚 アルゼンチン カトリック教会 ペンテコステ派教会 トランスジェンダー

1. 研究開始当初の背景

2010年に同性婚が合法化された南米アルゼンチンにおいては、LGBT当事者が同性婚の法的承認のみならず宗教的承認を要求するケースも増えているが、この「LGBTの宗教的権利」というテーマは非常にデリケートな問題であり、これまでまとまった研究はなされてこなかった。

2013年にローマ教皇に即位したアルゼンチン出身のフランシスコは穏健派で知られており、これまでも同性愛者を認める発言をしている。男女間における結婚という sacrament(秘跡)が近い将来に同性間でも許されることになるとすれば、ローマカトリック教会は今まさに大きな転換期を迎えようとしている。これらの現状を踏まえたうえで、宗教がジェンダー役割とセクシュアリティを強要し、LGBTの権利を阻害するといったこれまでの一面的な理解を超えて、彼ら/彼女らの権利運動に込められた宗教的承認要求やそれを支える宗教言説を明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年家族やジェンダー問題に対して穏健な姿勢を示しているアルゼンチンカトリック教会の宗教言説の変容を分析し、LGBTや同性婚に強く反対するペンテコステ派を中心とするプロテスタント教会の言説と比較・検討する。さらに、実際に教会による同性婚の承認を求めているLGBT当事者たちを調査し、彼/彼女らの主張を支える宗教言説を考察することである。

3. 研究の方法

本研究は、文献調査と現地調査を軸として行われた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大と長期化のため、現地調査は2019年秋、2023年春、2024年春(2023年度まで研究期間延長)に行った。現地調査では、研究テーマがジェンダーやセクシュアリティといった非常にプライベートな事柄であることから、2019年には研究対象となるLGBT当事者たちとの丁寧な関係づくりに専念した。LGBT当事者によって運営されているICM(International Community Church)教会の礼拝参加や、ICM教会メンバーと共に参加したLGBTプライドパレードを通して彼/彼女らと関係を構築した。これによって2023、2024年のインタビュー調査が可能となった。

また2019年に性的多様性に関するモレノ市の取組みについて知り、2023年にはモレノ市ダイバーシティ課を訪問し、インタビューを行った。さらに2019年はブエノスアイレス州ルハン市の中学校における包括的性教育の現場を参与観察し、推進チームのメンバーにインタビューをした。

コロナ禍では文献調査とともに、次回の現地調査のための情報収集や人脈づくりに努め、コロナ禍が明けた2023年度にはカトリック教会が運営するトランスジェンダー支援施設や世界初のトランスジェンダー学校での調査を行った。また、アルゼンチン国民の宗教意識に関する調査の最新データを入手し、カトリック教会の教義や公式見解とカトリック信徒の意識の差異を分析することが可能となった。加えて、LGBTイシューに関する国内情勢の変化を理解するために、LGBT活動家や当事者のSNSを随時チェックした。

さらに日本国内において、LGBTカトリックジャパンというLGBT支援グループ(教会非公認)と知己を得たことにより、研究テーマに関するカトリック教会やバチカンの情報を得ることが容易となった。

4. 研究成果

(1) カトリック教会の宗教言説の変容

教皇の座に就いた2013年、フランシスコは「同性愛者を私は裁けるだろうか」という言葉を残しており、米国制作のドキュメンタリー映画『フランシスコ』(2020年)の中では「彼ら〔同性愛者〕は神の子であり、家族の一員になる権利がある。誰も見捨てられたり、惨めな思いをさせられたりしてはならない」と述べ、性的マイノリティが受洗してカトリック信徒となることや、ミサで聖餐にあずかり、ゆるしの秘跡を受ける権利をもっているという認識を示した。さらに、「我々はシビル・ユニオン法を作らなくてはならない。そうすれば、〔同性愛者は〕法的に保護される」と述べたことから、多くのLGBTコミュニティは沸いた。

しかし、2016年に出された『使徒的勸告愛のよろこび』においてフランシスコは、「男と女の排他的で不解消の結びつきだけが変わることのない誓約であり、豊かな実りをもたらさう」という認識を示したうえで、「同性婚を短絡的に結婚と同一視することはできないということ、わたしたちは認識しなければなりません。かりそめの仲や、いのちの伝達に開かれていない間柄はいずれも、社会の未来を保障してはくれません」と説いた。さらにバチカン教育省が2019年に発表した文書「神は人を男と女に創造された」においても、「〔同性婚は〕当事者の好みの上に築かれ、しばしば一定時間に限られ、倫理的に確立できず、いかなる将来の計画もなしに合意した関係にすぎない」と同性婚を批判している。

結婚とはすなわち出産であり、家族をつくること。このように考えるカトリック教会では

同性同士の結婚を容認するわけにはいかず、かといってこれまで差別と暴力に苦しんできた同性愛者の権利を無視することもできない。そこで、フランスコはシビル・ユニオン法への支持を表明したと考えられる。シビル・ユニオンは法的に認められたパートナーシップ関係であり、教会で取り扱う事柄とはみなされない。しかし、これが同性婚となると、結婚に関するカトリック教義の変更が迫られるのはもちろん、同性婚をめぐる議論がカトリック教会の存在そのものを危うくするという主張も保守的な教会指導者の間でみられる。現にバチカン「カトリック教会は同性婚を祝福することはできない」という公式見解を2021年に発表している。2023年にフランスコは、司祭が同性カップルに祝福を与えることを許可したが、これは同性同士の婚姻を認めたものではない。

すべての人を受け入れる姿勢をアピールしつつも、カトリック教会は伝統的教義や規範を守り続けている。しかし、カトリック信徒の多くが同性婚を支持しており、「異性間での婚姻のみが有効である」と回答しているのは35.5%であった（2019年の国民宗教意識調査による）。

（2）反 LGBT、反同性婚のペンテコステ派教会

2019年の調査によると、アルゼンチン国民の62.9%がカトリック、15.3%がプロテスタント（うち大半がペンテコステ派）、18.9%が無宗教である。ペンテコステ信仰は学歴が低い貧困層を中心に拡大しており、ペンテコステ派信徒の53.1%が週に一度以上教会の礼拝（祈祷会、その他集会を含む）に参加している。また、彼らは礼拝を重んじるだけでなく日常生活における信仰的实践にも熱心で、「祈り」（95.1%）「聖書を読むこと」（79%）「宗教音楽（賛美歌、ワーシップソング等）を聴くこと」（74.7%）「宗教番組の視聴（テレビ、ラジオ、インターネット等）」（64.8%）などを行なっている。これらの行動を通して、彼らはペンテコステ派教会の聖書解釈や道徳規範を学び、同性愛を禁止していると読める聖句に依拠して、同性愛者やトランスジェンダーを容認していない。

聖書を言葉通りに信じる彼らはジェンダーとセクシュアリティに関して超保守の立場をとっており、同性婚合法化・人工妊娠中絶合法化の際にも率先して反対運動に加わった。皮肉ではあるが、今日アルゼンチン社会で失われつつある伝統的道徳規範をその範囲は限定的ではあるが強化しているのがペンテコステ派教会だといえる。実際に、ペンテコステ派信徒の67.5%が「異性間での婚姻のみが有効である」と回答している。

（3）LGBT 当事者とキリスト教会

教会による結婚の承認を求める LGBT 当事者への調査は叶わなかったが、教会とつながりを持つ当事者たちへの調査から以下のことが明らかになった。

カトリック支援組織がブエノスアイレス市にオープンしたトランスジェンダー支援施設「カサ・アニミ」には常時10名以上の入所者がいる。その多くはペルー出身のトランス女性であり、薬物やアルコール依存の問題を抱えている。カサ・アニミが一般のリハビリ施設やグループホームと異なるのは、肉体的回復や精神的回復のみならず、居住者の霊的回復（回心と救霊）が起きているという点である。カトリックの施設で生活し、日常的に信徒や司祭と触れ合う中で、彼女たちの多くが洗礼を受けてカトリック信徒になることを希望する。回復して施設を出所した女性たちは、近所のカトリック教会で清掃の仕事などを紹介してもらうことで、元の危険な売春業に戻らずに済んでいる。この施設の代表者（シスジェンダー）はカテキスタ（カトリック教理を教える役割）をするほど熱心なカトリック信徒であるが、人は生まれながらに肉体も精神も男/女として特徴づけられる（セックス＝ジェンダー）と主張するカトリック教会の教えには頓着していない。

2023年にインタビューをしたモレノ市ダイバーシティ課の課長を務めるナンシー・セナ氏はトランス女性活動家であり、熱心なカトリック信徒である。毎月19日、聖エクスペディトの像を拝むためにブエノスアイレス市まで通っている。聖母崇敬や聖人崇敬が盛んなアルゼンチンでは、彼女のように通常のミサには参加しないが、聖母・聖人への参拝は欠かさないという人も少なくない。セナ氏は数年前に結婚していた男性と離婚して、現在は新たな恋人と暮らしている。トランスジェンダーの婚姻に関してカトリック教会は明確な見解を出していないが、アルゼンチン南端に位置するティエラ・デ・フエゴ州では2021年にシス男性とトランス女性のカップルが挙式している。

ブエノスアイレス市内にあるメトロポリタン・コミュニティ教会（ICM 教会）には LGBT 当事者やアライが集まる。LGBT に寛容なルーテル教会の建物を間借りして、毎週日曜夕方に礼拝を捧げている。15人前後いる信徒の大半がゲイ男性であり、牧師も元カトリック司祭のゲイである。礼拝では性差のない表現が多く使用され、キア神学にもとづいて神（スペイン語では男性名詞で Dios）という言葉は使用されない。米国で1960年代末に始まった ICM 教会は現在20カ国以上、ラテンアメリカにはアルゼンチンを含む7カ国に枝教会をもっている。カトリック教会で挙式することが許されない同性カップルが ICM 教会に移ってくることも珍しくない。また ICM 教会は1992年の第1回プライドパレードから参加しており、世俗の LGBT コミュニティとも連

携している。

(4) 今後の課題

2023年末に新政権が発足したアルゼンチンでは、ミレイ大統領によって「女性・ジェンダー・多様性省」が廃止された。2024年2月には「差別とゼノフォビアと人種差別に対する国家機関」も閉鎖され、5月には職員の約半数である120名(その大半がLGBTQ+と障がい者)が一斉解雇された。

ミレイとカトリック教会は貧困者支援について意見を異にするものの、人工妊娠中絶やジェンダー、性的多様性に関してはともにアンチの立場をとっている。実際ミレイは今年2月に性差のない表現を全ての公文書並びに行政で使用することを禁止している。性差のない表現というのは、ジェンダー平等を目指した前政権の取り組みの一つであるが、カトリック教会はこれを、男女の概念をなくそうとするジェンダー・イデオロギーの押し付けに過ぎないと批判している。

ミレイ政権下で反LGBT派が活気づき、LGBTに対する差別や暴力が増幅したり、権利保障が後退する可能性もある。カトリック教会やペンテコステ派教会がこの情勢をどう捉えて、アクションに移すのか今後も注視していきたい。

また、本研究では同性婚の宗教的承認に焦点を当てて調査分析を行ったが、今後はトランスジェンダーも対象として研究を発展させる必要性を感じた。今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 渡部 奈々	4. 巻 1
2. 論文標題 排除か包摂か？ アルゼンチンにおける性的マイノリティの人権と宗教	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代宗教2023』	6. 最初と最後の頁 171-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渡部 奈々	4. 巻 23巻1号
2. 論文標題 アルゼンチンにおけるLGBTの権利運動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『マテシス・ユニヴェルサリス』獨協大学国際教養学部	6. 最初と最後の頁 97-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渡部 奈々	4. 巻 26
2. 論文標題 アルゼンチンの「国民的和解」とカトリック教会 誰が誰を赦すのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教と社会	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡部奈々	4. 巻 Vol. 42
2. 論文標題 アルゼンチンにおける人工妊娠中絶合法化	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渡部 奈々
2. 発表標題 ラテンアメリカにおける婚姻平等について
3. 学会等名 シンポジウム「ラテンアメリカと日本 婚姻平等：同性婚の法制化への道」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡部 奈々
2. 発表標題 プライドパレードとLGBT運動 6か国比較からみえてくるもの
3. 学会等名 第42回日本ラテンアメリカ学会定期大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡部 奈々
2. 発表標題 政権交代したラテンアメリカ諸国のLGBT
3. 学会等名 日本貿易振興機構夏季公開講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡部 奈々
2. 発表標題 “性的マイノリティ”の権利保障に関する6か国の現状 - アルゼンチン
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会大会東日本部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡部奈々
2. 発表標題 アルゼンチン：同性婚合法化のその先に トランスジェンダーの権利保障 -
3. 学会等名 第45回日本ラテンアメリカ学会定期大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伊達聖伸・渡辺優編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 西洋における宗教と世俗の変容 カトリック的伝統の再構成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------